

推計 農務 急務

農務利用の削減の恐れ

農林水産省は6日、食料・農業・農村政策審議会企画部会を開き、現在のすう勢が続けば2030年の農業経営体数は54万と20年(108万)から半減し、約3割の農地が利用されなくなる恐れがあるとの見通しを示した。「農地を適正に利用する人の確保」を最大の課題とし、品目ごとの状況に応じて規模拡大や新規就農・参入を推進するとともに、生産性や付加価値の向上を図る考え方を説明。来年3月末に策定する新たな食料・農業・農村基本計画に、主な品目別の経営体数・規模などの目標を設定するとした。将来展望の見える目標と実効性ある施策の抜本強化が求められる。

を育成して「収益を上げることが可能」と強調した。また、露地野菜の経営体は3万8千減の6万2千、施設野菜は1万6千減の4万5千で、特に主業経営体が半減すると見通した。ただ、経営面積を基にした試算では、法人など団体の増加が千ずつ見込まれるとし、生産減少の影響は比較的少ないと予測。対応では、労働力の確保



公益社団法人
全国農業共済協会

〒102-8411

東京都千代田区一番町19番地

購読 ☎03-3263-6413

編集 ☎03-3263-6727

毎週水曜日 月4回発行
(第5水曜日を除く)

©全国農業共済協会2024

<http://www.nosai.or.jp/>

11月は
災害に強い
施設園芸づくり
月間



主な記事

2面 総合

転換促す環境整備を
有機農業の現状と課題

3面 ビジネス

ニッポンはおいしい！ 金丸 弘美

女性で地域の食と農業から経済と持続社会につながる実践活動を現場を訪ねレポートしたものだ。どの女性も頼もしい。

都市の駅前に農家を口説いて朝市を毎週開いた名古屋市・吉野隆子さん、国産ウイスキーを海外へ売り込んだ埼玉県秩父市・吉川由美さん、牧場の横で採

れたて牛のミルクでジェラートを作り乳しぼり体験も始めた千葉県いすみ市・馬上温香さん、離島でカフェを開き地元産の農産物でジャム作り販売・食・観光につないだ山口県周防大島町・松嶋智明さん、レストランが欲しい野菜と種苗会社と若手農家とつなぎ価格決定は農家にもたらしたさいたま市・福田裕子さん——などなど。

消費者と女性目線でこまやか



な加工・販売を手掛け、出荷できない形の悪いのも少量のものも無駄なく商品化し、流通コストを抑え、価格を自ら決めて、持続経済の仕組みにつながる。発想力も行動力も素晴らしい。試行錯誤しながらも納得がゆくまで形にすることを築いている。

この取り組みをもっと見える化し、行政も支援をしていけば、未来の扉が開いていくに違いな。そんな思いでまとめてきた。そんな女性活躍の物語だ。
(食環境ジャーナリスト、食総合プロデューサー)

書籍紹介

◆『生きるための農業』菅野芳秀著

著者は、山形県長井市で50年間、地域循環型家族農業を営む。置賜地域での暮らしの素晴らしさ、悪戦苦闘する農業現場の実情や面白みをユーモアも交え、エッセイでつつつっている。本書は、大正大学地域構想研究所編集の雑誌『地域人』の連載「おきたま通信『百姓の独り言』」を再構成した。

◆『ダイバーシティJ A』だれもが活躍できる地域をめざして』日本協同組合連携機構編著

人材の多様性を意味する「ダイバーシティ」について、お互いの違いを認め合い、その人らしさを生かす合うことで組織や社会全体の持続的な成長と発展を促進するものと説明。JAや地域の力を結集し、発展するための基礎的な概念や具体的な事例を現場の実践者や研究者などが紹介する。

▽定価11980円(税込)

▽発行所11大正大学

出版会(T1170-847)

0 東京都豊島区西巢鴨3

の20の1)

▽定価11980円(税込)

▽発行所11全国共同

出版(T160-0011)

0 東京都新宿区若葉1の10の

32)